

平成22年度事業報告

NPO法人

海外に子ども用車椅子送る会

1. 概況

子どもの成長に伴って買換えられる子ども用車いすは、中古品購入には国や地方の補助金が支給されないため新品を購入した方が保護者の負担が少ないという現実からリサイクル市場が成立せず、9割の税金からの補助で購入された15～30万円もする高価な車いすが、子どもの成長によりイスに腰が入らなくなり2～3年で下取りされることもなく買換え廃棄されています。

一方発展途上国の多くの国においては高価な子ども用車いすの購入に補助金を出す制度がなく、肢体不自由児養護施設にすら子ども用車いすを設置しているところも少なく、子ども達が日光浴すらできない状態で見捨てられているという実態があり、発展途上国の肢体不自由児養護施設ではまとまった台数の子ども用車いす、歩行訓練器等を必要としています。

しかし、まとまった台数の子ども用車いすなどの医療機器を発展途上国に寄贈している団体はアメリカ以外には見当たらず、日本でも車いすを海外に送っている団体は数団体ありますが、まとまった台数を一度に送るには多額の資金を必要することから、当会以外のすべての団体は車いすを手荷物として持って行ってくれるボランティア旅行者を探しての1台ずつ個人に贈る活動方式で、発展途上国が望んでいる肢体不自由児施設を充実するためのまとまった台数をほしいというニーズには応えられていません。

当会は広く資金を集める活動やスポンサーを募る活動により、発展途上国のまとまった台数を送ってほしいというニーズに応え、平成22年度は過去最高の寄贈を達成、2004年6月の活動開始以来の寄贈実績は17カ国に29回、2225台となりました。

海外からのニーズに応える努力を続けているなかで、当会の活動が広く知られるようになるにつれ、不要になった子ども用車いすの引き取り要請も増え続け、平成22年度期初(4月)に未整備車いす約250台、ベトナム向け整備・梱包済在庫80台であった車いすの在庫は、計画の340台を大幅に上回る7カ国に604台の寄贈を実現したにもかかわらず期末(平成23年3月末)の在庫は未整備在庫約200台とベトナム向け整備・梱包済在庫57台と在庫が減らない結果となりました。

この増えた引き取り車いすをその年度内に寄贈しなければ、地元企業のご厚意で借りている倉庫に収容しれない状況に追い込まれかねない状況でしたが、幸いにも増えた引き取り車いすを海外に送れるだけの支援が各方面から得られ計画を大幅に上回る寄贈を実現することができたことにより、引き取り要請を断らなければならないという状況はなんとか回避できました。

しかしながら、東北関東大震災により未曾有の被害が発生、ボランティア団体の支援よりも被災者生活再建、被災地域再建への支援を優先しなければならない、優先していただかなければならない状況になりましたことから、当会のように助成金と一般からご寄付で活動している多くのボランティア団体にとりまして非常に厳しい活動環境となりました。

当会は、平成23年度は震災前にすでに約束しているベトナム(150台)、エチオピア(80台)、パラグアイ(80台)、カンボジア(80台)はなんとか寄贈をしなければなりません、厳しい活動環境のなかで寄贈台数をこれ以上増やすことは難しく、増え続ける不要子ども用車いすの引き取り要請にすべて対応することは難しい状況になりました。

2. 事業収支

	22年度		21年度実績	20年度実績
	予算	実績		
車いす寄贈台数	360台	604台	471台	477台
収入総額	3,595,800円	4,705,616円	4,861,863円	4,450,464円
支出総額	4,305,000円	5,417,490円	4,847,349円	4,282,638円
次年度繰越	2,119,972円	2,117,298円	2,829,172円	2,814,658円

3. 車いす収集

不要子ども用車いすを特別支援学校P T Aが学校単位に集めて当会に提供する支援が東京都のみから他県へと広がり、当初計画以上に集めることができました。

(1)収集台数計画収集台数350台 実績収集台数約500台

(2)つぎの特別支援学校、施設等にご協力をいただきました。

6月 都立城南特別支援学	6月 都立北特別支援学校
7月 都立墨東特別支援学校	7月 埼玉県立和光特別支援学校
8月 千葉県立船橋特別支援学校	8月 都立光明特別支援学校
8月 都立城北特別支援学校	8月 茨城県立水戸特別支援学校
10月 キャラードみどりの家	10月 都立江戸川特別支援学校
12月 都立東部医療センター	12月 都立北特別支援学校
1月 千葉県立香取特別支援学校	1月 都立城北特別支援学校
2月 横浜市長新治特別支援学校	2月 都立村山特別支援学校

(3)個人宅から約35台を収集しました。

4. 車いす洗浄、整備、梱包

毎月第3日曜日の車いす整備例会において、下記の国へ整備、梱包を完了し、地元ボーイスカウト、地元ライオンズクラブ、地元ロータリークラブの協力もあって340台の計画に対して581台の整備、梱包を完了し計画を大幅に超過達成しました。

J I C A寄贈	:60台(エルサルバドル向け:20台、スリランカ向け40台)
マレーシア向け	:100台
フィリピン向け	:121台
パラグアイ向け	:143台
ネパール向け	:100台
ベトナム向け	:57台(2011年7月150台寄贈予定)
合計	581台

5. 車いすの寄贈

2010年度 寄贈計画			
予定年月	寄贈先国	寄贈先団体	予定台数
4月	ベトナム	ベトナム赤十字社	80台
6月	エルサルバドル	J I C A(国際協力機構)	20台
7月	マレーシア	東方政策元日本留学生同窓会	80台
10月	フィリピン	J V R財団	80台
2月	ネパール	国際ネパール同盟	80台
合計			340台

2010年度 寄贈実績			
寄贈年月	寄贈先国	寄贈先団体	寄贈台数
4月	ベトナム	ベトナム赤十字社	80台
6月	エルサルバドル	J I C A(国際協力機構) 「世界の笑顔のために」プログラム	20台
7月	マレーシア	東方政策元日本留学生同窓会	100台
9月	フィリピン	J V R財団	121台
12月	スリランカ	J I C A(国際協力機構) 「世界の笑顔のために」プログラム	40台
12月	パラグアイ	テレトン財団	143台
3月	ネパール	国際ネパール同盟	100台
合計			604台

(1)年間の寄贈は計画を大きく上回る実績となりました。

(2)計画を上回った要因

- ①不要子ども用車いすの引き取り要請が大幅に増加し、保管倉庫のスペース事情から各国への寄贈台数を増やさざるを得なかったことによります。
- ②パラグアイ大使館からの切実な要請を受けて東京昭島中央ロータリークラブの協力得て計画外の寄贈を実施したことによります。

6. 広報活動

- (1)ミニ通信を毎月発行し当会の活動を月次報告
計画どおり毎月ミニ通信を作成し、会員および活動支援者260名に送付しました。
- (2)ホームページを更新し当会の活動をPR
毎月の車いす整備例会の様、および車いすの寄贈実績について随時更新を実施しました。
- (3)当会の活動をテレビで紹介していただきました。
 - ①2011年1月7日 NHK総合テレビ こんにちは！と6けん 放送時間13分
 - ②2011年1月28日 NHK総合テレビ おはよう日本 放送時間5分
 - ③2011年2月8日 NHK国際放送 NEWS LINE 放送時間4分

7. 啓蒙活動

- (1)都立福生高校、都立多摩工業高校の社会貢献授業に協力、約30名の生徒が7～10月の例会活動に参加していただきました。
- (2)ふっさ市民活動ボランティアセンター募集の夏ボランティア体験に中学生1名、父兄1名が7月の例会活動に参加していただきました。

8. 活動成果物

子ども用車いすを寄贈するにあたり、つぎの資料を作成しました。

- (1)ベトナム「ベトナム赤十字社」寄贈成果物
寄贈子ども用車いす写真一覧
寄贈子ども用車いすシートサイズ一覧
ベトナム訪問報告書
贈呈式写真
- (2)カンボジア「JICA交流事業同窓会」寄贈成果物
カンボジア訪問報告
贈呈式写真
- (3)JICA寄贈「エルサルバドル」成果物
エルサルバドル派遣青年海外協力隊員からの礼状
- (4)マレーシア「東方政策元日本留学生同窓会」寄贈成果物
寄贈子ども用車いす写真一覧
寄贈子ども用車いすシートサイズ一覧
贈呈式報告書
贈呈式写真
- (5)フィリピン「JVR財団」寄贈成果物
寄贈子ども用車いす写真一覧
寄贈子ども用車いすシートサイズ一覧
贈呈式報告書
贈呈式写真
- (6)パラグアイ「テレトン財団」寄贈成果物
寄贈子ども用車いす写真一覧
寄贈子ども用車いすシートサイズ一覧
- (7)ネパール「国際ネパール同盟」寄贈成果物
寄贈子ども用車いす写真一覧
寄贈子ども用車いすシートサイズ一覧
駐日大使への目録贈呈写真